

財 政 方 針

現在の我が国の景気の先行きは、令和8年4月の月例経済報告におきまして、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響や米国の通商政策をめぐる動向などに注意する必要がある、とされております。

国の財政状況をみますと、令和8年度一般会計予算規模が1兆2千2百3億9千2百万円（前年度比約6.2パーセント増）で、国債費や地方交付税交付金などを除いた一般歳出は、前年度比2兆4千8百5億円増の7兆1千5百57億円となっております。

歳入の根幹となる税収は、前年度比5兆9千1百60億円増の8兆3千7百350億円で、新規国債発行額は、前年度比9千3百69億円増の2兆9千5百840億円と増加し、歳入に占める公債依存度は24.2パーセントと高い状況となっております。歳出においても、年金・医療などの社会保障関係費が前年度比7千6百21億円増の3兆9千5百59億円となり、厳しい財政運営が続いております。

さて、令和8年度当初予算でございますが、物価高騰や労務単価の上昇などの影響を受け、財政運営は厳しい状況が続いておりますが、市有地の売却やネーミングライツの導入などにより財源の確保に努め、限られた財源を効率的・効果的に配分した予算編成としたところでございます。

歳入については、市税収入を前年度当初予算から約42億円の増収を見込み、約1千101億円を計上し、歳出については、川口総合文化センター・リリアの改修事業や川口市立美術館の建設事業が完了したことにより、一般会計は前年度当初予算比1億6千750万円の減となる2億5千697億7千000万円、特別会計、企業会計を合わせた予算総額は4億7千406億10万円となっております。

物件費や公共施設の老朽化に伴う維持補修費などの経常経費の伸びにより歳出が増加するなど、厳しい財政状況のなかではありますが、引き続き市税収納率の向上などにより財源確保を図り、健全な財政運営を継続して参ります。